

【国語】 大学入学共通テスト試行調査(プレテスト)所見 (平成 29 年 11 月実施)

教材研究センター国語研究室

◎ 試験概要 ◎

配点： 200 点＋記述式の評価

試験時間： 100 分

◎ 出題における特徴的な点 ◎

- 現行のセンター試験(国)が大問4題構成であるのに対し、本テストでは冒頭に記述問題1題が加えられ、大問5題構成となっている。
- それに伴い、試験時間が現行の 80 分から100分へ増えた。
- 記述問題は 50 字、25 字、80 字以上、120 字以内の3題であり、生徒会規約とそれに関する会話文で構成されている。
- 第2問(現・評論)では、本文に加えて、複数の表、図、写真が添えられ、複数の資料を関連づける力が問われている。
- 第3問(現・小説)では、「幸福な王子」のあらすじと、それに基づく小説が組み合わせられ、複数の視点で物事が捉えられている。
- 第4問(古文)では、3つの関連した古文の文章が出題されており、複数の文章をそれぞれの確に解釈する力が求められている。
- 第5問(漢文)では、漢文とその関連文章(日本語)が提示され、漢文の基礎知識と複数の資料を関連づける力が問われている。

◎ 大問ごとの分析 ◎

第1問 現代文(記述問題)

出典：高等学校の生徒会部活動規約、および、それに対する生徒会部活動委員会の執行部会における5名の会話文

※資料①アンケート(部活動に関する生徒会への主な要望)、資料②(市内5校の部活動の終了時間)、資料③(高校新聞の部活動に関する記事)

問1 記述問題(50 字)

○当該年度に部を新設するために必要な、申請時の条件と手続きを、生徒会部活動規約にもとづいて 50 字以内でまとめる問題。

☆該当する部分の抜き出しでは制限字数をオーバーしてしまうため、規約の該当部を的確、簡潔にまとめる能力が問われている。

問2 記述問題(25 字)

○兼部(一人の会員が複数の部に所属すること)の条件を緩和する件について、これまで認められてこなかった生徒の要望の内容を規約にもとづいて記述する問題。

☆これまで体育部と文化部との兼部は認められていたが、体育部同士の兼部、文化部同士の兼部は認められてこなかったことを踏まえた説明が必要。

問3 記述問題(80 字以上、120 字以内)

○現在の部活の終了時間(17 時)を延長する提案に対して、「確かに……しかし」という二文構成で、一文目に具体的根拠を2つ、二文目に想定される反対意見を書かせる問題。

※120 字の下書き欄がついている。

※全体として以前に発表された記述のサンプル問題よりも、難度は下がっている印象。基本的には与えられた資料にもとづいて、必要な部分を抜き出し、的確にまとめれば解答が得られる作りになっている。

第2問 現代文(マークシート問題)

出典：宇杉和夫「路地がまちの記憶をつなぐ」(評論)

※表1(近代道路空間計画システムと路地空間システムの特徴を対比した表)

表2(非区画型路地と区画内型路地の特徴を対比した表)

図1(参道型路地的空間を示す写真)

図2(参道型路地空間とパッケージ型路地空間を示す図)

図3 東京・江東区の街区形成と通り(写真)

図4 東京・江東区の街区の中の路地(写真)

図5 東京・墨田区向島の通り(写真)

問1 傍線部説明問題(A・B)

○近代空間と路地的空間の特徴を対比した表1を見て、その表中の語句の意味を指摘させる問題。本文中に明確な説明箇所があるわけではなく、文章全体の主旨を把握した上で正解を選ぶ必要がある。Bはやさしいが、Aには一定の難度がある。

問2 図2の説明問題

・これも問1同様に、図2の中にあるパッケージ型と参道型の路地の違いを説明させる問題。細かな部分よりも、本文の論旨を大づかみにとらえる姿勢が求められている。

問3 図3の説明問題

・図3に示された江東区の街区形成の写真を見て、それがどのような整備の例として挙げられているかを答えさせる問題。選択肢を見る以前に正解を思い浮かべるのはかなり難しい。選択肢の誤りを排除することで正解が得られる作りになっている。

問4 文章全体の理解を確認する問題

・本文の主題確認をねらいとした問題であり、選択肢は短い。

問5 まちづくりにおける「路地的空間」の長所と短所についての議論を読み、文章全体を踏まえて成り立ち得る意見を選ばせる問題

・本文の読解を踏まえた上で、さらなる発展的な理解を求める問題。本文では路地的空間の特質が説明されているが、それを踏まえて「緊急時や災害時の対応」に関して成立する意見はどれかを選ばせる問題。緊急時や災害時の対応については、本文中に該当する記述がなく、受験生がこれらのテーマについて本文を踏まえて考察を加える必要がある。思考力型の問題として、従来には見られなかった設問の作りである。

※従来のセンター試験よりも、小問が1問少なくなっている(6→5)。

※本文の量は、2017 年度センター試験国語第1問の約8割程度だが、表・図・写真が加えられており、全体の分量はほぼ変わらない。

第3問 現代文(マークシート問題)

出典:光原百合「ツバメたち」(小説)

問1 漢字問題(ア～ウ)※従来のセンター試験は漢字問題は評論からの出題であり、漢字数が5。今回は小説からの出題となっており、漢字数は3に減っている。

問2 傍線部の表現の根拠となる文を選ばせる問題

・小説問題において、文中の表現の「根拠」を問う設問は珍しい。「若者」の「風変わり」な点を示す本文中の4文のうち、一つを選ばせる。工夫の感じられる設問。

問3 文章中のせりふ「わからないさ」「わからない」にこめられた気持ちを確認する問題(B、C)

・文中の表現に込められた心情を確認する問題。小説問題によく見られる心情理解問題である。それぞれの選択肢は3。従来のセンター試験では見られない選択肢数である。

問4 小説中の「オスカー・ワイルドの幸福な王子のあらすじ」と、その後の文章との関係を理解する問題(正解は2つ)

・本文中の「幸福の王子」のあらすじが、それ以降の文章では、「あたし」という平凡なツバメの視点を通して読み換えられるという、本文の構成に対する理解を問っている。文章全体を巨視的にとらえる姿勢を求め、工夫された問題である。

問5 本文中の表現の説明として適当なものを選ばせる問題。(a、b、c)

・構成や表現の理解を問う問題。これも問4と同じく、文章を大づかみにとらえる姿勢が必要。部分的な細部の読みよりも、大きな構造や対比を読み取らせようという意図を感じさせる問題。

※本文の量は、2017年度センター試験国語第2問の65%程度。

※従来のセンター試験よりも、小問が1問少なくなっている(6→5)。

※問2の選択肢は4つ、問3は3つ、問4、問5は6つと、選択肢の数が問題によって異なっている。

※第2・3問とも、正解の数が不明である問題は出されていない。基本的に正解は1つであり、第2問、第3問とも正解を2つ選ばせる小問が1題ずつ出題されている。

第4問 古文(マークシート問題)

出典:『源氏物語』(第1帖 桐壺)の文章Ⅰと文章Ⅱが示され、その箇所につまむる後世の逸話として文章Ⅲがあげられている。ⅠとⅡは同じ場面だが、Ⅰは藤原定家が整えた本文、Ⅱは源光行・親行親子が整えた本文で表現に違いがある。冒頭には「『源氏物語』は書き写す人の考え方によって本文に違いが生じ、その結果、本によって表現が異なっている」という説明が付されるなど、全体的に注や補足説明が多い。

問1 傍線部の後に省略された表現を補う問題

・文法、古語の基礎知識を問う空欄補充問題に近い出題。

問2 和歌の説明問題

・一首の歌に関して文法や和歌修辞の知識、解釈が問われている。「適当でない」ものを選ばせる問題。選択肢が端的な説明であり、正解は絞りやすくなるように配慮されている。

問3 傍線部解釈問題

・短い傍線部解釈であり、反語を踏まえて正解を選ばせる基本的な設問である。

問4 傍線部説明問題

・傍線部の説明問題だが、文脈把握に加えて敬語の理解が問われている。

問5 表現とその効果に関する説明問題

・従来のセンター試験にも出題されたことのある形式であり、「適当でない」ものを選ばせる問題。決して難解ではなく、傍線部の解釈や注にもとづいて正解が得られるようになっている。

問6 内容説明問題

・文章Ⅲの内容として正しいものを選択する問題。細かい内容ではなく大枠の理解が問われており、その理解に基づいて選択肢の正否を判断できるものになっている。

※古文と現代の対話文で構成されたサンプル問題とは異なり、古文だけの3つの文章で構成されている。

※文章Ⅰ・Ⅱで『源氏物語』がとりあげられているが、高度な読解は要求されていない。むしろ、全体として本文や注の説明文の分量が多いため、的確に要点をつかむことが要求されている。

※従来のセンター試験の問1にあった枝問がないことで設問数が少なくなっており、文法知識を単独で問う設問もなくなっている。ただし、小問が6問あること、選択肢が5つで統一されていることなど概ねセンター試験を踏襲している。

※すべての小問の正解が1つであり、3つの文章を綿密に比較検討して解答するような設問も見受けられなかった。総じて、選択肢も短いものが多く、シンプルな設問になっている。

第5問 漢文(マークシート問題)

出典:文章Ⅰ(司馬遷『史記』。殷王朝の末期に、周の西伯が呂尚(太公望)と出会った時の話を記したもの)、文章Ⅱ(授業でⅠを学んだクラスは太公望について調べてみるようになった。そのクラスの2班が太公望を詠んだ佐藤一斎の漢詩を見つけ調べた文章)

問1 漢字の読み(1と2)

問2 漢字の意味(アとイ)

問3 傍線部の返り点と書き下し文の組み合わせとして適当なものを選ばせる。

問4 傍線部解釈問題

- ・以上4問は現行試験にも頻出する設問形式。
- ・基本漢字や句法(文法・語法)など、読解の基礎的学力を問うている。
- ・総じて基本問題が中心となっている。

問5 漢詩の説明、および漢詩に関連した事項として正しいものを選ばせる。

- ・正しいものを6つの選択肢の中から「すべて」選ぶ形で、現行試験の設問形式と異なっている。
- ・漢詩の知識(詩の形式・押韻・対句)だけでなく、漢詩の背景知識(文学史的な知識)を必要とする点が目新しい。
- ・従来にない設問であることに新しさを感じる一方、解答には本文以外の知識が必要であるところが難点か。

問6 文章Ⅱのコラム文の中にある誤りの箇所を選び、それを正しく改めたものを選ばせる。

- ・設問形式は目新しい。
- ・コラムの日本語表現の問題もあり、現時点では読解力の有無よりも、注意力の有無や語彙の多寡が重要になっている。

問7 文章ⅠとⅡ(漢詩)の相違点をふまえ、文章Ⅱ(漢詩)の趣旨を答える問題。

- ・複数の文章を理解する学力を問おうとしたと考えられるが、現時点では実質的に文章Ⅱのみで解答できる。

※読解の基礎的知識・技能、日本の漢文、漢詩、複数の資料(日本語を含む)、背景知識(文学史)など、求められる多くの要素を詰め込んだ内容となっている。

※著名出典・逸話からの出題。

※「太公望」の由来など、現代的な内容に近づけようとした跡はうかがわれるが、現時点では知識問題が主となっている。

※設問数は7で現行試験(6~8)と同じ。選択肢は5~6で、現行試験(5~6。ただし近年は5)と大きく異なっていない。